

群 教 セ	G11 - 03
	令 6.287集
	学級活動

話し合った内容に納得した上で、 学級のために行動できる児童の育成 ——互いを認め合える雰囲気づくりとICTの活用を通して——

特別研修員 林 秀樹

I 研究テーマ設定の理由

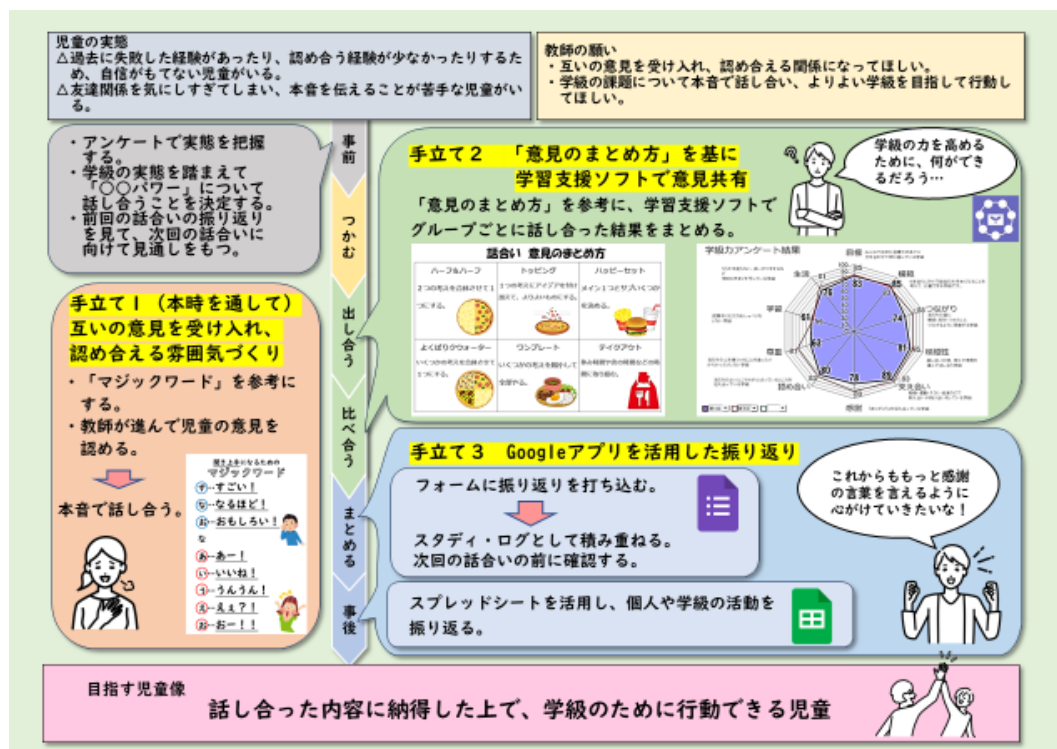
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編」における総説では、「学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合って合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うこと」が重要視されており、自分と異なる意見や少数の意見も尊重し、安易に多数決で決定することなく、折り合いを付けて集団としての意見をまとめることが大切であると指摘されている。

本学級の児童は、過去の失敗した経験が強く印象に残っていたり、認め合う経験が少なかったりするため、自分の考えに対して自信をもつことができない児童がいる。また、友達関係を気にしすぎることで、本音として考えを伝えるのが苦手な児童も見られる。話し合い活動では、発言力のある児童の意見が反映されやすい傾向にあり、話し合いの結果を基によりよい学級を目指して行動に移せるのは一部の児童に限られていた。

そこで、意見の聞き方を学級全体で共有したり教師が進んで児童の意見を認めたりすることで、互いを認め合える雰囲気づくりをするとともに、学習支援ソフトやフォーム、スプレッドシートのようなICTを活用することで、少数意見にも目を向けて合意形成を図ることができるようにした。そして、話し合いの結果に納得した上で具体的な行動に移すことができる児童を育成することを研究のテーマとして設定した。また、本研究では、学級活動の内容の「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」に限定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

一人一人が話し合った内容に納得した上で、学級のために行動していくことができるよう、以下の手立てで実践を行った。

手立て1 互いの意見を受け入れ、認め合える雰囲気づくり

本音で話し合えるようにするために、「マジックワード（意見の聞き方）」を示したり教師が進んで児童の意見を認めたりする。

手立て2 「意見のまとめ方」を基に学習支援ソフトで意見共有

多数決ではなく少数意見にも注目して意見をまとめられるように、合意形成の際は「意見のまとめ方」を参考にしたり、学習支援ソフトを活用してグループごとに話し合った結果をまとめたりする。

手立て3 Googleアプリを活用した振り返り

振り返りをフォームに打ち込み、スタディ・ログとして積み重ね、次回の話し合いの前に児童に提示する。スプレッドシートを活用し、個人や学級の活動について振り返る。

なお、本時で話し合うためのアンケート結果のグラフは10項目で構成されており、児童の回答を数値化して、「〇〇パワー」と名付けた。また、スマイルアクションとは、学級の課題を解決するための具体策のことである。

Ⅲ 実践例

1 議題名 「クラスをよりよくするためのスマイルアクションを考えよう」
学級活動(1) (第6学年・2学期)

2 本議題について

小学校学習指導要領に示されている学級活動の内容「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」のうち、「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」に関わるものである。学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践することを目指している。

本学級では話し合いを行い、学級目標を「みんなを笑顔にする魔法 プラス言葉があふれる学級」と決めたが、現在の学級の課題は何かを把握し、そのためにどのような行動をすればよいのかを理解している児童は少ない。そこで学級のアンケートを基にして課題を見だし、児童の本音を引き出すことで話し合いの内容に納得し、学級のために行動していく児童の力を養う上で価値があると考えた。

以上のような考えから、本議題では以下のような指導計画を構想し実践した。

目 標	(1) 知識及び技能 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 (2) 思考力、判断力、表現力等 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 (3) 学びに向かう力、人間性等 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
評価 規 準	(1) 知識・技能 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。 (2) 思考・判断・表現 よりよい学級を目指し、現状の問題を把握し、解決に向けた話し合いの進め方に沿って合意形成を図ろうと実践している。

	(3) 主体的に学習に取り組む態度 よりよい学級を目指し、学級の実態を踏まえた自己の考えをもち、友達や学級全体へと広げようとしている。
過程	主な学習活動
事前の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の実態を把握するためのアンケートに答える。 ・アンケート結果のグラフを見て、個人で学級の課題を見いだす。 ・本時で話し合う課題のパワーについて考え、決定する。 ・前回の話し合いの振り返りを見ることで、次の話し合いに向けて見通しをもつ。
本時の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「マジックワード」を参考にしながら、グループごとに話し合う。 ・学習支援ソフトを活用して、スマイルアクションについて学級全体で話し合う。
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成したことを基に具体的な行動目標を掲示する。 ・スプレッドシートを活用し、個人や学級の活動について振り返る。

3 授業の実際

(1) 事前の活動

まず、計画委員と教師で活動計画を話し合い、議題を「クラスをよりよくするためのスマイルアクションを考えよう」と設定した。また、司会2名、黒板書記3名、ノート書記2名、提案理由の発表者1名の分担を決めた。次に、普段の学校生活を想起しながら答えるように教師から言葉掛けをした上で、学級では議題に関するアンケートを取った。その後、アンケート結果を基にどの項目を高めていくべきかについて話し合い、学級の課題として「『ありがとう』を伝え合う力（以下、感謝パワー）」について話し合うことに決定した。そして、前時の振り返りを確認し、本時の話し合いに向けて意欲を高めた。

(2) 本時の活動

① つかむ場面

司会が学級会の議題とめあてを確認し、提案理由の発表者がこの議題について話し合う理由を説明した。教師からは「マジックワード」（5ページ資料1）を基に互いの意見の聞き方を大切にすることや、「意見のまとめ方」（5ページ資料2）を使って合意形成を図ること、そしてアンケート結果のグラフの数字だけでなく、普段の学校生活の様子を基に話し合うことを意識するよう助言した。

② 出し合う場面

児童は学習支援ソフトの画面に感謝パワーを高める手立てを個人で考えて打ち込んだ。事前に感謝パワーに関する課題を学級全体で共有していたため、スムーズにスマイルアクションを考えることができた。その後、グループで一人一人が考えと理由を発表し、グループとして意見をまとめた（図1）。付箋機能を活用して自身の考えを打ち込み、話し合った。教師は、友達の発表を聞きながら頷いたり、反応したりしている児童を称賛した（図2）。

③ 比べ合う場面

「朝の会や帰りの会で、目標の設定・振り返りを行う」という意見が出された。目標について振り返る頻度については、1週間と2週間のどちらかで意見が分かれたが、個人に合わせて自身の行動を振り返ったり、目標の再設定をしたりしてもよいのではないかという意見が出た。また、「振り返りをすると決めること自体が、一人一人の具体的な行動につながるのではないか」という意見もあり、賛同している児童が多かった。

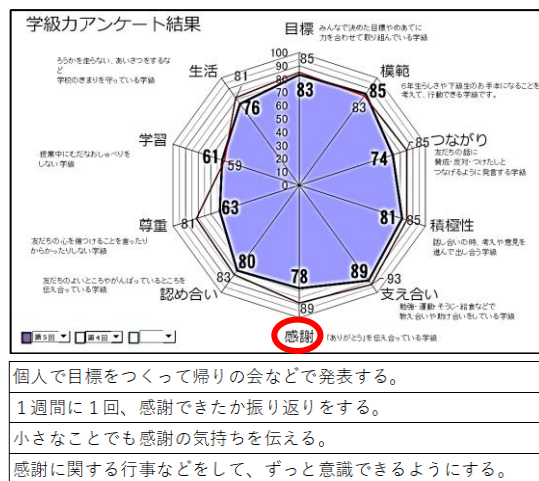


図1 学習支援ソフトで共有したアンケート結果とグループの考え



図2 話し合いの様子

④ まとめる場面

意見の比較・検討後、具体的な取組について話し合う中で、目標設定と振り返りの大切さについて多くの意見が出されたため、学級全体で取り組むことになった。授業の終わりには、フォームに振り返りを打ち込んだ。本時のめあて「自分の思いや考えを伝えよう」を意識して振り返ったことで、話し合いにおいてどのように発表できたのかという視点での記述が多く見られた（図3）。

個人に合うようなスマイルアクションはすごくよかったと思った。他にも全体でできることを増やして次に生かしていきたい。意見が二つに割れたこともあったけど、皆が納得のいく意見になってよかった。

図3 フォームの本時の振り返り

(3) 事後の活動

本時の翌日に個々の目標をスプレッドシートに入力した（表1）。1週間後を目安に振り返りと目標の再設定を行った。感謝の言葉を進んで伝え合う児童が多く見られた。

表1 事後の活動の振り返り

目標	振り返り
ありがとうを誰にでも伝えるように心がけたい。	「ありがとう」などの感謝の言葉はできる限り言えたと感じた。自分はあまり「ありがとう」と言われるような行動をできなかったと感じた。自分が嬉しかったから、来週はもっと言いたいと思った。毎日頑張りたい。

(4) 考察

手立て1として、「マジックワード」を基にグループや学級全体の話し合いで聞き方のポイントを示したり、教師が進んで児童の意見を認めたりしたことで、話し合いにおいて友達の考えに対して賛成や付け足しの意見だけでなく、相手の考えを尊重した上で自分の意見を発表する姿が見られた。また、振り返りにおいて、最初は自身の意見がよいと感じていたものの、他者の意見に納得しているものがあつた。以上のことから、互いを認め合う雰囲気をつくり本音で話し合う手立てによって、話し合いの内容に納得することにつながったと考える。

手立て2として、学習支援ソフトを活用し一人一人が意見を書き出し、グループで比較・検討できるようにした。画面の意見を参考にしながら話し合うことができ、少数意見にも目を向けグループや学級全体の意見として合意形成する上で有効だったと考える。

手立て3として、フォームに振り返りを打ち込んで蓄積したことで、前時の振り返りの内容を踏まえ、話し合いに前向きに取り組む姿が多く見られた。個人の振り返りを蓄積していく中で、その内容がどのように変わったかを児童に考えさせることで、振り返りの内容が更に深まり、学級のための行動につながると考える。

IV 研究のまとめ

1 成果

互いの意見を受け入れ、尊重し合うことで、一人一人が納得できる話し合いにすることができたと考える。また、事後の活動において、スプレッドシートを活用して個人の目標を立て定期的な振り返りを行ったことで、感謝の気持ちをもって授業に取り組んだり、困っている子がいたときに助け合ったりする児童の姿が多く見られた。

2 課題

学習支援ソフトの画面を学級全体で共有する場面では、児童一人一人が付箋に書き込んだ考えにも着目しながら発表させる必要性があつた。司会が話し合いを進行する際に学級全体に呼び掛けたり、教師が事前に説明してから話し合いに臨んだりすることで、個人で書き込んだ意見が更に反映できると考える。また、本時の振り返りにおいて、めあての他に「自分や友達の意見について考えたこと」など、話し合いの内容についての視点を入れることにより、一人一人が納得できたかどうかを見取ることができ、学級のための行動につながる支援を行いやすくなると考える。

V 資料

1 マジックワード

聞き上手になるための
マジックワード

す…すごい！

な…なるほど！

お…おもしろい！

な


あ…あー！

い…いいね！







う…うんうん！

え…ええ？！

お…おー！！



2 意見のまとめ方

話し合い 意見のまとめ方		
ハーフ&ハーフ 2つの考えを合体させて1つにする。 	トッピング 1つの考えにアイデアを付け加えて、よりよいものにする。 	ハッピーセット メイン1つとサブいくつかを決める。 
よくばりクウォーター いくつかの考えを合体させて1つにする。 	ワンプレート いくつかの考えを縮小して全部やる。 	テイクアウト 休み時間や次の時間などの時間に取り組む。 

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は登録商標

本報告書では、Google Formsをフォーム、Google スプレッドシートをスプレッドシートと記載しています。

Google アプリ、Google Forms、Google スプレッドシートは、Google LLCの商標 又は登録商標です。

なお、本文中には、™マーク、®マークは明記していません。